

研修報告書No.5

研修先：高知県立あき総合病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

県外在住医師から見た高知の地域医療の状況について、長所・問題点を述べる。長所として、地域の方々が県外の者を温かく受け入れて下さる雰囲気があった。元々の土地柄と考えられるが、こうした温かさにより他県出身者も働きやすい雰囲気が作られていた。県外在住の者にとってその土地を好きになれるか否かが地域医療に従事できるかどうかの鍵と言える。そのため、県外の者にも分け隔てなく接して下さる空気が重要で、また高知で働きたいと感じる最大の要因となった。また、その地域の特色を知ることも非常に有効と感じた。観光地や特産品から街の様子や職業的な特徴を知ることが出来、高知を好きになることにもつながった。問題点としては、交通の便の悪さ・高齢化の進行が挙げられる。高知県は東西に長く移動に多くの時間と労力を要し、山間部など交通の便が悪い地域での通院困難が課題だと感じた。しかし救急搬送に関してはヘリ導入が奏功した例を目の当たりにし、ヘリ導入の有用性も実感した。高齢化の進行は全国共通の問題だが、リハビリ施設・スタッフを充実させた民間病院を見学させて頂き、高知県では高齢化社会の需要に合う病院・施設作りが進んでいることを学んだ。また、都市部に比べ、多様な科の疾患への対応を要する状況が多く、内科をはじめ幅広い科の疾患に対応する力が必要だと感じた。

研修内容に関しては以下の長所・問題点が挙げられる。長所としては、モデルとなる素晴らしい先生方との出会いに本当に感謝している。あき総合病院の的場先生、大崎診療所の沖先生という地域医療に献身的に取り組まれている先生方のお話を直接聞き、勤務を実際に見学させて頂くことが非常に貴重な経験となった。改善点としては、遠隔地から来る研修医の場合、研修期間は3月を避けて頂くことが望ましいと考えられる。県内から研修に来る場合と異なり簡単に普段の勤務地に帰ることが出来ないため、次年度に向け必要な手続き等を行えず関係各所に影響が及び、今後考慮頂ければと感じた。

今回の臨床研修で得たと考えられるものは、医療過疎とされる地域の実際の姿を経験することであった。メディアからの情報を受け取るのみでは現実感が薄く、情報の信頼性も不確かである。短期間でも実際にその地に赴き勤務し、その地で働く医師の本音を聞き、その土地の患者の声を聞くことが非常に重要であると実感した。